

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域コミュニティづくり—高校生にできること「防災・減災 災害時要配慮者の支援を中心に共助の取り組み」「在宅療養・看取りの地域啓発活動」「子どもの虐待」「性暴力—ジェンダー平等」の4つの取り組み		
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	兵庫県立尼崎小田高等学校	
	活動グループ名	あまおだ「かんご」	参加学生等人数 31人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	普通科 看護医療・健康類型	
	責任者氏名	福田秀志	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	小田地区民生児童委員協議会、	
	代表者氏名	西村由美子	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	ア:災害時要配慮者の支援について高校生ができることを模索していく。(災害時要配慮者についての市民啓発、災害時のトイレに大切さの警察、子どもに対する減災知識の啓発、高齢者の見守り・安否確認、イベントの実施)イ:在宅療養について市役所、尼崎医療・介護連携協議会と協働し、「看取り」について市民に啓発していく。ウ:子どもの虐待についての原因追及、虐待予防教育実施の提起、エ:性暴力を通して、ジェンダー平等、包括的性教育の必要性の問題提起		
活動内容及び実績、評価	<p>別紙のパワーポイントのスライドを参照。</p> <p>自治会との協働による避難訓練、災害時要配慮者の安否確認など、コロナ禍においても実施できた。また、小田南生涯学習プラザ等において、おだ夏祭り、尼崎市民祭り、あまおだ減災フェス、おだ冬祭り、高齢者イベント、在宅療養ワークショップなどで、減災、在宅療養の必要性について、市民に啓発することができた。また、「子どもの虐待」班では、「いくしあ」(子どもの育ち支援センター)に訪問し、現状を聞き、課題を抽出し、高校生にできること＝「虐待防止教育」の内容を吟味し、次年度に向けて、出前授業を実施していく方向を確認した。性暴力班は、性暴力を通して、ジェンダー平等、包括的性教育の必要性を導き出し、高校生にできる「包括的性教育」の内容について、次年度に向けて出前授業を実施していく方向を確認した。</p> <p>4つの活動はすべて、「地域コミュニティづくり」＝人と人の繋がり、地域の活性化が目的であるが、高校生が地域で活動することで、その目標は達成できたのではないかと思う。</p> <p>写真データー</p>		

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。



上3枚：7. 26の防災ジュニアリーダー  
阪神・丹波地区集会（小田南生涯学習プラ  
ザにて）  
真ん中2枚：「セルフネグレクト」の方の  
部屋の掃除、引っ越しの用品の購入  
一番下：11.11日実施の「あまおだ減災フ  
ェス」に向けて。杭瀬団地、県立大学学部  
生、院生と本校生とのファッションショー  
の準備







一番上：尼崎市民祭りでの防災すごろく  
上から2番目：防災国体にて、災害時要  
配慮者について啓発のための報告  
左・一番下：あまおだ減災フェスでの防  
災すごろく、防災ファッションショー







一番上と上から2番目右：高齢者見守り

上から2番目左、上から3番目

：高齢者あまおだサロン

一番下：立花西小学校でのトイレ啓発活動





# 「災害時に助け合える地域コミュニティづくり」 高校生にできること

兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型

## 「テーマ設定の理由」

- 災害時に医療・福祉職の果たす役割は大きい。
- 本校が立地する地区は海拔0<sup>メートル</sup>地帯。  
3人に1人が65歳以上の高齢者。独居の高齢者が多い。  
⇒災害が起こると大きな被害が、特に高齢者や障がいを持つ人などの災害時に特別な配慮が必要な人（災害時要配慮者）の命が失われる可能性が大きい。
- 地域住民との交流のない層が増えている。  
⇒災害時、共助・互近所の助け合いが機能しない恐れが大きい。

## 「そこで」

- 本校が地域減災の「HUB」（ハブ）となり  
高校生と地域住民、地域住民同士の繋がりを築いていこう！



高大連携フォーラムIN京都  
大学  
(2022.12.24)

2022年度の取り組み ぼうさい甲子園「奨励賞」受賞（2023.1.8）

### 1：子どもに「自助の大切さ」を伝える活動

（防災すごろく・防災〇×ゲーム・防災ビンゴゲーム）

### 2：「災害時要配慮者」が災害時に何に困っており、どのように支援をしていけるのかを、市民等に知ってもらう活動

### 3：「災害時要配慮者支え合い・見守り事業」

### 4：「地域コミュニティによる助け合い」

（自助・共助）の大切さを伝える活動

### 5：「災害とトイレと災害時要配慮者」についての調査活動& トイレの自助を啓発する活動

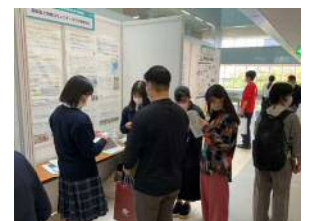


# 1. 防災すごろく・防災ビンゴ



尼崎市民祭り(10. 2)、防災国体・赤十字兵庫支部共催行事(10.23)  
SDGsフェアINODA2022(11.5)、あまおだ減災フェスティバル(11.12)

# 2. 2016～2022年「災害時要支援者」についての取り組みについての報告



齋藤兵庫県知事と「ハイチーズ」



- ・防災国体(内閣府主催・10. 22, 23国際健康開発センターにて)
- ・「SDGsフェアINODA2022」(11.5小田南生涯学習プラザ)

「BOUSAIゼミな～る✳ぼうさいこくたい」  
(NPO法人宇和島NPOセンター主催)の「地域とは」「命とは」「つながりとは」を語り合う、岡山、愛媛、福島、兵庫灘校の高校生と一緒に！！

### 3. 支え合い・見守り事業【2022.10～2023.1】

2023.1.21 杭瀬団地での民生委員との見守り



「備蓄してますか」と尋ねたところ、6人中5人は備蓄していないとのことでした。その理由は「地震が来る時まで生きてない」「独りやから避難所に行けばどうにかなる」などでした。私は「備蓄した方がより良い避難所生活が送れますよ」と伝えると、「ネットで探してみるね」と前向きに捉えてくださり、嬉しかったです。  
「コロナ禍で、家族や友人と会う機会、話す機会が減り、地域のつながりも少なくなった。高校生が来てくれて元気が出た」

「災害時、どうせ助からないと思っていたが、高校生が来てくれて、助かるように自分ができることをやってみようと思った」

見守り事業に参加し、本当に独居の高齢者が多く、認知症を抱えた親族が多いということがわかった。多くの高齢者が「人と話すことがないので寂しい」という声を聞き、「孤立」が広がっているということがわかった。そういう意味で、地域コミュニティづくりの大切さを実感できた。

### 4. あまおだ減災フェス 目玉は防災ファッションショー



①



③



④



②



⑤



- ① BloomWorksの「A.E.D」の曲に合わせて胸骨圧迫をする類型生
- ② 宝塚西高校の段ボールベッド
- ③ 看護医療類型の防災すごろく
- ④ 大阪医療福祉専門学校作業療法士学科の段ボールベッド
- ⑤ あまおだ地域応援隊、類型生によるAED救急法

中学・高校・大学・大学院・専門学校・一般  
14団体が参加





## 寄せられた感想

○尼崎小田高校は、尼崎のイメージ好印象化を目指して最近奮闘しており、私も内心応援していますが、その行動力はどこから来るのだろうと思っていました。

ここ幾年かの地域活動、防災減災活動で、自分たちが地域に根付いた学校であるという意識が芽生えていたからなんだと今日のフェスに来て実感しました。

○「ぼうさいこくたい2022」でも頑張っていたので、この勢いで防災減災活動、地域活動、尼崎好印象化活動に是非とも邁進していただきたいと思います。尼崎小田高校の生徒の皆様が地域での好印象の模範になっていくと、他校の生徒もつられて、地域全体が好印象になっていくと思っています。若い世代に大いに期待しています！

○ゲームで防災知識などを子どもに教えたり、紐の結び方、心配蘇生のやり方など学べるのはいいと思います。

○お祭りなどいけないことが多いので入り口で格安で食べたりできるのも子どもの楽しみになっています。

## 5.「災害とトイレと災害時要配慮者」についての調査



阪神・淡路大震災 | アーカイブ 災害時におけるトイレ事情 | 災害用トイレガイド ~災害用トイレ・衛生製品の選び方~ (toilet.or.jp) 2023 1.12閲覧

障がい者団体と懇談  
「災害時の最大の問題はトイレだ」  
(2022.8.27.実施)⇒  
(尼崎身体障害者福祉センター)



**「食事よりトイレ」「食事は我慢できるが、排泄行為は我慢できない」**

～トイレは命に関わることから、最優先の課題である～

避難所等のトイレが不衛生  
↓  
水分や食品摂取を控える  
↓  
栄養状態の悪化や脱水症状、静脈血栓塞栓症  
(エコノミークラス症候群)等の健康障害を引き起こす

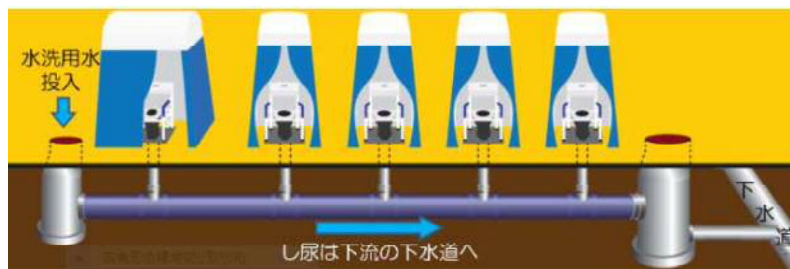
・不快  
・排泄を我慢

足腰の弱い高齢者や車いす使用の身体障害者にとって、**トイレの使用が極度に困難**  
↓しかし  
おむつ等の確保も課題である  
↓  
脆弱性の高い人たちにとっては、衛生環境の悪化は**生命に関わる問題**となる

**行政の対応はどうか、調べてみよう！**



下水道管路にあるマンホールの上に簡易な便座やパネルを設け、災害時において迅速にトイレ機能を確保するものです。



下水道：災害時に使えるトイレ - 国土交通省 (mlit.go.jp)  
2023 1.23閲覧

NHK 2022.4.19 災害用の備蓄トイレ  
どんな種類が？どう使う？

携帯トイレ (便座がないもの)		簡易トイレ (便座があるもの)
<b>便器取り付けタイプ</b>  自宅の便器に設置して使う 袋タイプで備蓄に便利	<b>持ち歩きタイプ</b>  野外でこのまま使う コンパクトで持ち運び便利	 便器が壊れた場合には便利

## ア. 6市1町へのアンケート（9項目中4項目のみ）

### （質問1）

「災害トイレ基本計画」は存在するのか。「地域防災計画」の中で市としてトイレについて、どのように策定しているのか？災害トイレに特化した計画・マニュアルの作成状況は？

### 〔考察〕

- ・トイレに対する基本計画等は**全自治体が設定していない**。
- ・マニュアル的な内容は**地域防災計画に記載している自治体もある**。
- ・**トイレを「特別」とは考えていない**。日常必要な物との考えの延長として災害時も考えられている。

自治体の詳細の回答は、別紙、黄色のプリントを参照してください



## (質問2)

指定避難所で仮設トイレ、マンホールトイレ、洋式トイレなど要配慮者にも配慮した整備状況について。携帯トイレ、簡易トイレ等の備蓄状況は？

### [考察]

携帯トイレの備蓄状況⇒携帯トイレの備蓄状況は避難者数で考えると約3回分の備蓄であり、**数的には少ない**。

携帯トイレ⇒備蓄されているがいつ、**どこで使用するのかが不明**。  
段ボールトイレに対しての**処理袋数が不明**。

災害発生当初トイレの必要数⇒各自治体の考え方で必要数は違うが、不足がない自治体は20人に1基。他の自治体は75人～100人で1基、300人で1基など**地域によって違いがある**。

トイレの整備状況⇒マンホールトイレなど整備は進めているが、和式数が多いことが気になる。多目的用トイレを少ないため、**障がい者数や高齢者数を考慮して増やす必要あり**。

## (質問3) 災害時用配慮者の避難所でのトイレ対策は？バリアフリートイレの整備は？介助者などの配置など災害時用配慮者への支援などあるのか？

### [回答]

**災害時用配慮者の避難所でのトイレ対策**⇒「避難所の設備面、介護面では対応できていないところもある」「施設管理者による施設更新に合わせた整備」

**バリアフリートイレの整備**⇒「備蓄しているトイレは車いすでも利用できるものを購入している」「要配慮者にも配慮したトイレ（車いすでトイレの中まで入れる大きさ）は配備を行っている」「指定避難所の多数を占める学校においては築年数が経過している施設が多く、車椅子を使用する大人の避難者が利用できるバリアフリー対応のトイレはほとんどない」「可能な限り、整備済みの多目的トイレを使用する事を計画」

**介助者などの配置など災害時用配慮者への支援**⇒「介護面では対応できていないところもある」「避難所ごとの介助者の配置までは行うことまでは調整できていない」「必要に応じて適切な支援が提供できる二次的な受入れ施設（福祉避難所等）への移送。」「介助対応の職員等を配置することは困難」「各避難所でお互いに支援しあっていただく」「必要に応じて援護部（市職員）等が対応にあたる」「福祉避難所（災害時要配慮者が避難する避難所）について整備できている」「避難者の状況に合わせて必要となる支援を行う」

## 【考察】

### 災害時用配慮者の避難所でのトイレ対策

- ・避難所の設備面では十分ではなく、施設管理者による施設更新による整備となっている。
- ・ユニバーサルデザイン・バリアフリー法などに準じた整備が必要

### バリアフリートイレの整備

・ある自治体は指定避難所の多数を占める学校においては築年数が経過している施設が多く、車椅子を使用する大人の避難者が利用できるバリアフリー対応のトイレはほとんどない。「ない」ことを住民や障害者に周知する事が必要

・備蓄しているトイレは車いすでも利用できるものの購入や車椅子でトイレの中に入れるように配備はされているが障がい者等が使用しやすいかの検証は行われていないようである。

### 介助者などの配置など災害時用配慮者への支援

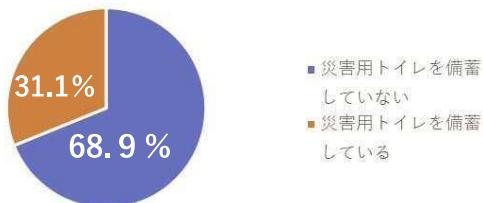
- ・ほとんどの自治体が介助者の設置はされていない。公助に頼れないのか？・福祉避難所へ移送する。
- ・職員が避難所にしているときは対応が可能と返答があり、避難者による避難所運営での対応が期待される。

(質問4) 携帯トイレ、簡易トイレ、トイレットペーパーなどの備蓄について、  
住民にどのような啓発を行っているのか。

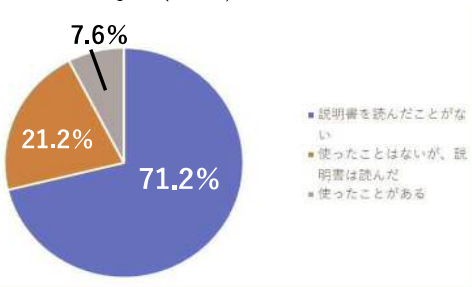
全自治体がホームページ、市報、ハザードマップ、防災ガイドブックや出前講座等で  
トイレについて啓発している。

## イ.災害用トイレの備蓄アンケート(2年生180名)

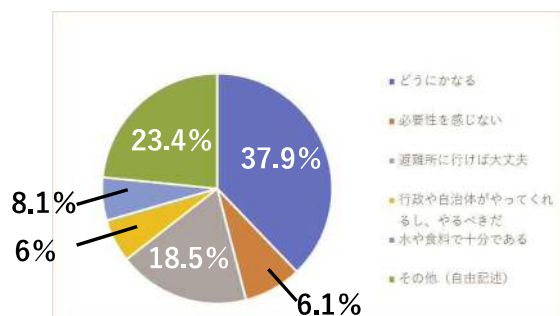
問1.あなたやあなたの家庭では、災害用トイレは備蓄していますか。(180)



問2.問1で備蓄していると答えた人は、あなたが備蓄している災害用トイレの使い方を  
知っていますか。(66)



問3. 問1で備蓄していないと答えた人は、なぜ備蓄しないのですか。(複数回答124)



自治体の啓発に反して、簡易トイレの各家庭での備蓄率は低い。



小学校で、トイレの  
大切さを訴え、段  
ボールトイレを一緒  
に作る！  
(2022年12月20日)



この小学校では、  
阪神淡路大震災28  
年目の2023年1月  
17日、保護者参観  
日に、私たちが伝  
えた段ボールトイレ  
の作成方法を今  
度は子どもたちが  
保護者に伝え、一  
緒に作成しました。

## ウ：今後の課題

食事をする限り、トイレは必要であり、高齢者などは避難所でトイレへ行く回数を少なくすることを考えて、災害関連死等へと移行することが大きな問題であり、喫緊の課題である。

●自助の必要。備蓄品に必ず携帯トイレを「トイレ回数×人数+避難日数分」の準備が必要。トイレ対策は公助だけでは対応できない⇒「ポスターを作成し、自助の必要性を訴える」（小学校での出前授業）

●自治体はトイレ対策を行っているが、障がい者等に対応できるトイレ数や介助に対して改善の余地が多数ある。住民も災害時のトイレに対する備えや避難所での問題点などを考え、対策を行なう必要がある。

●避難所では避難者全員の「共助」により、少しでも快適なトイレの利用に全員で努めていく事が大切。

### 【まとめ】

①トイレ問題について、私たち高校生が「自助の啓発」「共助の話し合い」「公助への要望」に向けて、動いていく。

②トイレ弱者（災害時要配慮者）、それぞれの持つ障害に応じて、バリアフリートイレ+αを聞き取り、より良い利用しやすいトイレを考え、バリアフリートイレを企業に提言していく（理系の人の協力を）

③トイレ弱者（災害時要配慮者）の介助者になれるように、障がいを持つ人の支援の方法を学んでいく。

# 宮城県訪問・石巻市・多賀城市訪問 2022.12.23～12.26 2名参加

- 1.旧大川小学校、周辺観察 佐藤敏郎さん
- 2.避難所運営と子どもたち KIBOTCHA
- 3.多賀城高校との交流・街歩き 多賀城高校の方々
- 4.命と向き合う防災教育について  
今野浩行さん・ひとみさん夫婦
- 5.災害発生後の課題と対応
- 6.災害の教訓とエネルギー問題への対応 女川原子力発電所
- 7.あおい地区「日本一のまちづくり」 小野竹一さん

## 1.旧大川小学校・周辺観察

### あの大川小学校と呼ばれる前を伝えたい



佐藤敏郎さんの講義を聞いて、いかに避難訓練が大切で、災害が起きた時にすぐに避難をできるようにすることを学びました。



### 3.宮城県立多賀城高校との交流・街歩き



多賀城高校（災害科学科）の活動を聞き、その後多賀城高校の生徒さんと一緒に街歩きをしました。津波が来た痕跡を、特殊なスプレーを使って残すなどの工夫がされていて、とても分かりやすかったです。

### 4.命と向き合う防災教育について



大川小学校児童のご遺族の**今野浩行さん・今野ひとみさん**夫婦が大川小津波訴訟について、講義をしてもらいました。  
**「学校が子どもの命の最後の場所にはなってはいけない」**

## 7.あおい地区「日本一のまちづくり」



あおい地区会長の小野竹一さんにどのような取り組みをして、復興した後に「住まいの街並み賞」受賞に至ったのかについて、お話をお聞きしました。

**「ひとりひとりの声を聴き、大切にすること」**

## 1. 17震災メモリアル行事

(兵庫県立舞子高等学校にて、2023.1.13)

午前

- ・ 式典
- ・ シンガーソングライター あさりさん (宮城県で被災) のコンサート  
舞子高校環境防災科と共同制作した  
記念ソング「シェア」を披露
- ・ 雁部那由多さんの講演 「語り継ぐ」
- ・ 分科会 本校の2022年度の取り組みの報告
- ・ 午後 避難所運営のワークショップ





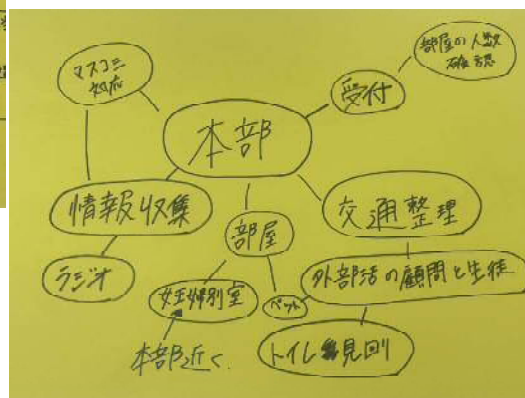
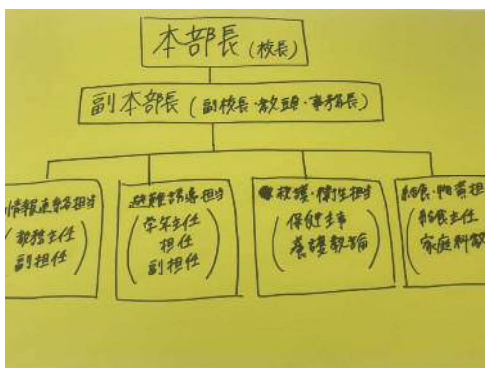
# 雁部那由多さん（大学生）の講義を受けて

- ・ 東日本大震災での実体験（小学校6年次）  
→津波が発生し、避難してきた大人の方が津波に飲み込まれ手を差し伸べられたが、、、
- ・ これからの未来を作る私たちが語り継いでいく  
→地震を体験した方々のお話を聞き、私たちが次の世代に語り継いでいく。

《語る》こと、《語り継ぐ》こと

## これからの避難所運営を考える

### ワークショップ



# 全国防災ジュニアリーダー育成合宿

2023 1・13~1・15 in淡路島

1. 災害メモリアル行事振り返り
2. 活動発表「壁新聞」作成
3. 災害と向き合う（講師：諏訪先生）
4. パネルディスカッション
5. アクションプラン作成・発表
6. 人と防災未来センター 見学



## 6. 「人と防災未来センター」見学



自分の命を守る  
ためにまずは  
逃げよう



「人生の最期は自宅で、『自宅はいい』  
を支える在宅療養・介護の充実を」

「尼崎市医療・介護連携協議会」との協働

## 尼崎市では

・医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域・自宅で、いつまでも自分らしく暮らし続けることができるように、「在宅療養」を支える医療・介護の専門職たちが連携をとって、チームをつくり、「在宅療養」をはじめる本人と、それを支える家族をサポートする体制を整えている。

・今後の暮らし方や人生の最終段階におけるケアについて、自ら考え家族や関係者などと共有する「**ACP=アドヴァンス・ケア・プランニング**）=人生会議」の普及啓発を行っている

\* ACPについては、劇を鑑賞いただければ意味が理解できます。

## 私たちの使命！！

将来、医療・福祉職に就き、在宅療養を担うであろう私たちが在宅療養を支える医療・福祉職から、「**学ぶ**」、地域住民に「**伝える**」ことで、「在宅療養」や「人生会議（ACP）」の理解を地域に「**広めていく**」こと！

「**伝える**」「**広めていく**」ために、**学んだ**ことをもとに、劇のシナリオを考え、劇を制作し、演じました。

# 台本制作に向けて

◎地域の方に「住み慣れた地域・自宅でいつまでも自分らしく暮らし続けることができること⇒「在宅療養・看取り」を伝えたい。

⇒在宅療養に関わる専門職同士がどのように連携を取りながら、それぞれの職種の専門性を活かしていくのかに着目して講義を受けた。

⇒どの専門職も本人の意思を尊重し、本人らしく暮らし続け、本人らしく最期を迎えることができるためのサポートを重視。

**そのためには**⇒本人の意思を知ることが必要。

**そこで**⇒「ACP」の重要性を意識し、シナリオを作成。

**今年度の工夫**⇒「認知症」患者さんを登場させた。5回目にしてはじめて！

**苦労した点**⇒

医療、介護制度が非常に複雑なこと、認知症についての理解が乏しいことなど、シナリオ作成にあたり事実と合致しているのか、迷うことが多くでてきた。

その都度、調べ、聞いた。最後に内容に間違いがないか包括支援担課を含め専門職の方に確認をしてもらった。完成したのは1月7日。

## 兵庫県立尼崎医療総合医療センター 藤原久義元院長が 「ひょうご人生100年時代プロジェクト」の座長

ひょうご人生100年時代プロジェクト

提 案 書

人生100年時代に向けた兵庫県の挑戦

～ 高齢、子育て支援、地域再生、働きやすさ、社会福祉、環境対策

日本一の県を目指す～

令和3年6月

ひょうご人生100年時代プロジェクト推進委員会

### 第3章 持続可能な社会への変革と提案

#### 5 超高齢化時代の医療・介護と対策

##### (2) 提案

② できる限り自らが望む場所と医療・ケアで穏やかに死を迎えられるよう、延命治療等の在り方について早急に若年者も巻き込んだ国民的な合意形成を図った上で、「人生会議」、在宅医療及び地域包括支援センターの強化・推進を図るべきである。

##### 【説明】

**国民的合意形成のためには若年者も巻き込んだ**

**“人生100年時代を考える”教育の普及が重要で、**

**すでに、兵庫県立尼崎小田高校では**

**「尼崎市医療・介護連携支援センターあまつなぎ」や医師会等の協力で、**

**「在宅介護ワークショップ」として実施している。**

**これをモデルケースとして、全県・全国の高校に波及すべきである。**

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf28/hyogojinnsei.html>

寸劇ですが、  
シナリオづくりに苦勞  
しました。ぜひ、ご覧  
ください。

サービス担当者会議の場면을2場面見ていただきました。本人の意思決定の実現を支援することをACP（アドヴァンス・ケア・プランニング）といいます。高齢者や重い病気にかかり残された時間をどのように過ごしたいのか、どのように死を迎えたいのか、いわゆる、もしもの時にどうするのか以外にも、価値観や信念、死生観、人生観、療養の場や最期の場所や代弁者についても話し合います。

厚生労働省は2018年9月に「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」の愛称を「人生会議」に決定しました。また、11月30日（いい看取り）を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日とすることも決まりました。



本人と家族、医療・ケアチームと繰り返して話し合うことが必要となります。

劇では本人が意思疎通困難な状態だったため、本人がこれまで大切にしてきたことや今後どのように過ごすことを望むかについて、本人から直接話を聞くことは叶いませんでした。

一般に知られていないのも事実ですが、私たちも万が一に備え、自分の人生を見つめ直すためにもACPを行う必要があります。皆さんもご家族や自分のことをよく知っていて信頼できる人と一緒にこれからのことを考えていってください。

そのためには、患者さんが経済的負担や家族の介護の負担に配慮することなく、自己の人生観に従って真に自由意思に基づいて決定できるためには終末期における医療・介護・福祉の体制が十分に整備されていることが必要で、かつ患者の意思決定をサポートする体制が不可欠であることが必要です。

それらが整備されないと、お金がないから、家族に迷惑をかけたくないからと、本人の意思を本当に尊重することにならないからです。

介護保険制度は3年に1度、大きな見直しが行われ、次は2024年です。政府内では、すでに見直しの議論がすすんでいます。その中身は負担増が目白押しです。特に大きな影響があると見られるのは、「利用者負担の原則2割化」「ケアプランの有料化」「要介護1・2の総合事業への移行」です。詳細はここでは述べませんので、ご自分で調べてみて下さい。

「介護の社会化」をかかげて2000年に始まった介護保険制度ですが「住み慣れた家で最期まで暮らせるようにとの介護保険制度」が見直しの度に、「住み慣れた家で最期まで暮らせない介護保険制度」になっているようにしか思えません。また、介護労働者の不足が深刻化し、介護が家族に押し戻される「再家族化」が起こる可能性もあります。**介護保険制度の理念と現実の乖離を見て見ぬふりはしたくありません。**結局困るのは、医療・介護に関わる専門職を含めたすべての国民だからです。

## 「あまおだサロン」の開催（2022.11, 19）

### 【なぜ、イベントを！！】

**ア：高齢者が増え、高齢者の単身世帯が増え、  
地域住民との交流のない層が増えている。  
地域のつながりの希薄化。**

- 高齢化率26.7%（2017年）で2060年には40%を超える予想。
- 2010年、単身世帯が8.5万世帯。高齢者の単身世帯は2.7万世帯（単身世帯の32%）
- 2025年には単身世帯は9.0万世帯。高齢者の単身世帯3.6万世帯（単身世帯の40%）
- 地域との交流が「ある」と答えた人は42.7%で、41.4%は「あいさつ程度」で、11.5%が「ない」と回答。

「1人暮らし」の方が地域の人との交流が「ない」と回答する人が多い。（20.7%）

（「**尼崎市総合計画 2013-2022**」より）

## イ：市民のボランティア活動など地域の支え合い活動に参加している人は全体で12.1%

(職場や学校等で取り組んでいる地域でのボランティア活動を含む)

☞具体的な行動に結び付ける「きっかけ」がないことで参加に至らない。

## ウ：一人暮らしや地域との交流がない人ほど「相談できる相手がいない」⇒地域で孤立している高齢者がいることが想像できる。

高齢者層は自分や家族の健康のこと、老後の生活のことが「悩み・不安」の第1位。

(「尼崎市総合計画 2013-2022」より)

## 見えてきた課題は、「社会的孤立」だ！！

「家族やコミュニティとほとんど接触がない」 (タウンゼント・英)



### 世界保健機関 (WHO) の健康の定義

「健康とは、安全に、身体、精神、及び社会的によい状態であることを意味し、単に病気ではないとか、虚弱でないということではない

「人とのつながりがあるかないか」が

認知症や自殺の予防、寿命に大きな影響を及ぼす。

(『社会的処方 孤立という病を地域のつながりで治す方法』学芸出版2020.1)

私たち高校生ができること

はないのだろうか。





# 11月19日（土） 小田南生涯学習プラザ



## 「高校生企画！あまおだサロン」のイベント実施

### 【内容】

- ・脳トレ体操
- ・スマホ教室



- ・なんじゃもんじゃカードゲーム・・・カードをめくるたびに謎の生物に「名前」をつけて、再び山札から同じカードが現れたら、その名前を誰よりも早く叫ぶというカードゲーム。「面白い名前」をつけて大爆笑。記憶力を試せます！
- ・もしばなカードゲーム・・・人生の最期について考える

## アンケート結果（参加者約20名、提出10名）

- 1：楽しかったですか？ はい（10）
- 2：一番楽しかったものは スマホ教室（5）、なんじゃもんじ（4）、もしばな（1）
- 3：50代（1）、70代（6）、80代（3）
- 4：サロンを知ったきっかけ  
市報（3）、口コミ（2）、本校配布チラシ（2）、回覧板（2）、こどもから（1）
- 5：地域とのつながり・かわりについて  
・良いこと（4）、大切なこと（2）、孤立を防げる（2）、困ったときに助け合える（2）
- 6：またあれば参加は？ 参加する（9）

高校生が地域コミュニティづくりに参画することで、高齢の方が自分らしく過ごすことができるような地域コミュニティへと繋げていくことができるのではないだろうか！

## 「尼崎市医療・介護連携協議会」との協働

以下のスライドは、多職種のみなさんの授業&ワークショップの一覧です。お世話になりました。



① 令和4年6月9日(木) 齋田 宏さん(医師)

尼崎市医師会理事、大隈病院 院長

### 講義内容：

超高齢社会、地域包括ケアシステム、  
地域医療、ときどき入院・ほぼ在宅  
グループワーク：

「超高齢社会（少子化）になるって  
どういうこと？  
何が生じる？何をすれば良い？」



②令和4年6月23日(木) 勝谷友宏さん(医師)  
尼崎市医師会地域包括ケア・勤務医委員会 副委員長  
勝谷医院 院長、大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 招聘教授

講義内容：

アドヴァンス・ケア・プランニング

グループワーク：

「アルツハイマー型認知症の男性と  
その家族についてどう  
すればサービスを利用して  
もらえるか？」



③令和4年6月30日(木)

田中良亮さん、小寺 達也さん(行政)  
尼崎市役所 包括支援担当(課)

講義内容：

在宅療養という選択肢、医療・介護連携、  
人生最期を考えるということ

グループワーク：「もしバナゲームをしてみよう」

余命が短くなったときに、大事にしたいことは何？そんな「もしも」を念頭に、人生の締めくくり方を考えるカードゲーム。ゲームを通して自分の価値観や死生観に向き合い、やがて訪れる「その時」を見つめる。

(令和元年8月4日、神戸新聞に本校のこの取り組みが紹介される)





④令和4年9月8日(木)

在宅医 朝田真司さん

尼崎市医師会 監事、朝田医院内科・循環器科 院長

訪問看護師 藤原真由美さん

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会 阪神南ブロック

訪問看護ステーションだいもつ管理者

講義内容：

在宅医療とは、病院との違い、在宅の魅力

自宅での看取り

グループワーク：

「あなたの親御さんが肺がん末期の

場合、どのように声をかける？」



⑤令和4年9月22日(木)

藤本美佳さん、大村清子さん（行政）

尼崎市役所 包括支援担当(課)

講義内容：

【認知症サポーター養成講座】

認知症を知る、高齢者支援を知る

グループワーク：

「あなたがレジの店員の

場合、どのように対応する？」



⑥令和4年10月6日(木)

歯科医師 田中壮憲さん  
尼崎市歯科医師会、田中歯科医院 院長  
歯科衛生士 清水豊子さん  
兵庫県歯科衛生士会 阪神南支部尼崎地区

講義内容：

歯の本数と介護の関係、在宅支援の  
厳しさ、無関心な患者のモチベーションを  
上げること

グループワーク：

「健康に関して無関心な人に、  
あなたにできることは何？」



⑦令和4年10月20日(木)

ケアマネージャー 益永昌代さん  
尼崎市ケアマネージャー協会副会長、尼崎市主任介護支援専門員連絡協議会  
理事、尼崎社会福祉協議会居宅介護支援事業所  
ホームヘルパー 松本教資さん  
日本ホームヘルパー協会兵庫県支部会長、(株)ケア・ワーク 代表取締役

講義内容：

介護保険の制度、介護の現場で遭遇すること、地域共生社会、  
地域貢献

グループワーク：

「高校生ができる  
地域貢献活動は何がある？」



⑧令和4年10月27日(木) 理学療法士 樋笠重和さん  
医療法人社団西宮回生病院・大原病院リハビリテーション科科长  
兵庫県理学療法士会 理事 (作業療法士、言語聴覚士も参加)

講義内容 :

リハビリテーションとは、日常の何気ない動作について、福祉用具の体験

グループワーク :

「トイレに間に合わない場面が多くなった。オムツ使う？使わない？」



⑨令和4年11月10日(木)  
薬剤師 高田多美江さん 尼崎市薬剤師会 理事  
栄養士 坂本ひとみさん 兵庫県栄養士会 管理栄養士

講義内容 :

在宅療養における薬剤師&栄養士の仕事、薬の飲み合わせ、バランスの摂れた食事

グループワーク :

「自己管理が不適切な父親に、適切な薬と食事の摂取を促すには、どうしたらいい？」





⑩令和4年11月17日(木)

今村明子さん(中央東地域包括支援センター 管理者)

加山美佳さん(武庫西地域包括支援センター 管理者)

田中 良亮 尼崎市役所 包括支援担当(課)

小寺 達也 尼崎市役所 包括支援担当(課)

講義内容：

地域包括支援センターについて、連携する力、  
家族として何ができるか

グループワーク：

「社会問題について知る・考える～  
8050問題～」



## 《参考文献》

- 「第4章 精神疾患を発症した高齢者と社会的孤立」  
『社会的孤立死する高齢者たち 誰もが陥る可能性を避けるために』  
(2022年日本機関紙出版センター)
- 「【事例6】  
アルツハイマー型認知症をもつ高齢者の在宅看取り事例」  
『ACP 推進に関する提言 事例集』  
(2019年一般社団法人 日本老年医学会)
- 「住み慣れた家で最期まで暮らせない、今の制度とは」  
『あなたはどこで死にたいですか』 小島美里  
(2022年 岩波書店)

# したくない それでも生まれてしまう虐待 ～社会で子どもを育てる～

兵庫県立尼崎小田高等学校  
看護医療健康類型

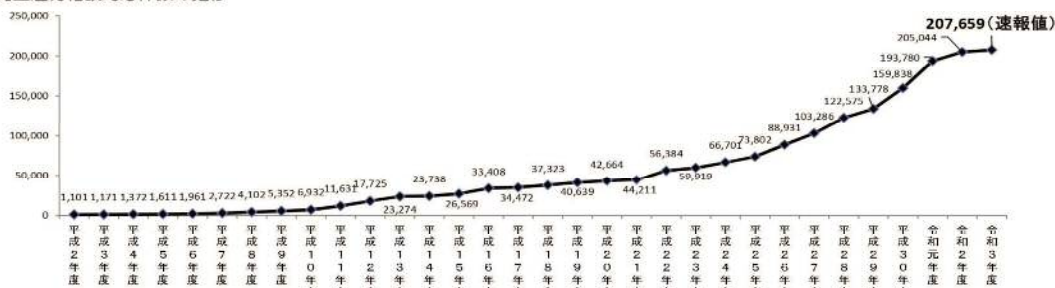
## 1. テーマ設定の理由

2

### 児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

1. 令和3年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数  
令和3年度中に、全国225か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は、207,659件（速報値）で、過去最多。  
※ 対前年度比+1.3%（2,615件の増加）（令和2年度：対前年度比+5.8%（11,264件の増加））  
※ 相談対応件数とは、令和3年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により形導や措置等を行った件数。

### 2. 児童虐待相談対応件数の推移



厚生労働省  
令和3年度  
児童虐待相談  
対応件数より

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (速報値)
件数	44,211	56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044	207,659
対前年度比	-3.6%	-	-	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%	+1.3%

（注）平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

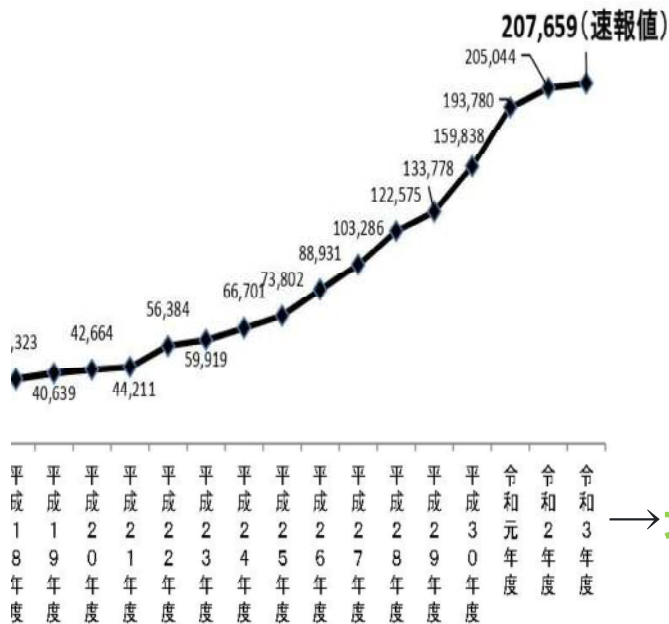
### 3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加（令和2年度：121,334件→令和3年度：124,722件（+3,388件））
- 家族親戚、近隣知人、児童本人等からの通告の増加（令和2年度：46,521件→令和3年度：47,948件（+1,427件））

（令和2年度と比して児童虐待相談対応件数が増加した自治体からの聞き取り）

- 虐待相談窓口の普及などにより、家族親戚、近隣知人、児童本人等からの通告が増加。

## 1. テーマ設定の理由



ここ10年で

大きく増加

児童虐待の相談対応件数がここ10年で大きく増加している事実を知った。

→地域から児童虐待を減らすには？

## 2. 現状を知る

現状を知る必要があった

地域から虐待を減らすためには、地域社会がどのような問題を抱えていて、どのような取り組みを行っているのかわかる必要がある。そこで**児童虐待が起こる背景や子どもの心身への影響**について知るため「いくしあ」（子どもの育ち支援センター）を訪問し、お話を伺った。



「いくしあ」とは

子どもや子育てに関して課題や困難を抱える子どもたちと子育て家庭に寄り添い、様々な関係機関が連携しながら、切れ目なく継続的に支援を行う総合施設。

→尼崎市の子育て支援の総合施設

**児童虐待が起こる背景や子どもの心身への影響**について知るのに適しているのではないか。





## 2.現状を知る

# わかったこと・変化した認識

虐待を行ってしまう親は決して鬼などではない。

- ・ 例え温厚な性格の人でも、子どもに虐待をしてしまうこともある。
- ・ 子どもの虐待が起こっている家庭も、**一定の時間**以外は円満であることが多い。

## 3.市民インタビュー

市民インタビュー（18名）  
（2022.11.2実施）

得られた回答

**「朝、子どもが家を出ない時」  
どうしますか？**

### 交換条件を出す

「行かなければご飯を抜く」などの交換条件で嫌嫌ながら、言うことを聞いてくれるから。

### 子どもは休ませる

自分も仕事へ行かないといけないから。子どもを休ませれば、**周りに迷惑**がかからずに済むから。

### 3.市民インタビュー

●  
市民インタビュー  
わかったこと



子どもを取り巻く社会環境の  
理想と現実が乖離している。

理想

→仕事・用事に遅刻するが子ども  
を送り届ける。

現実にできないのは何故か？

社会の側に課題が？

### 4.アンケート

●  
親と社会の関わり

- ・子育てとは関係のない人は親や子どもをどう見ているのか？
- ・親と社会の関わりに親はストレスを感じているのか？

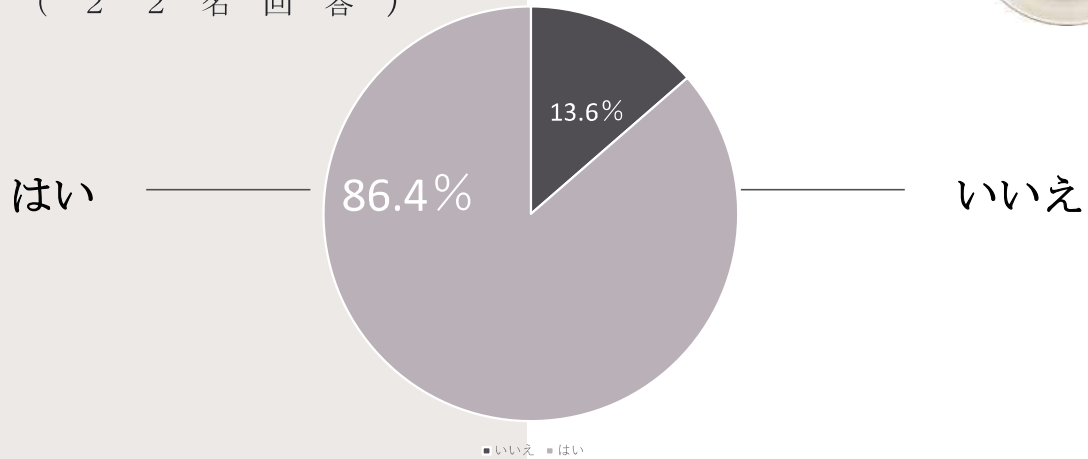
→アンケートを取った。





#### 4.アンケート

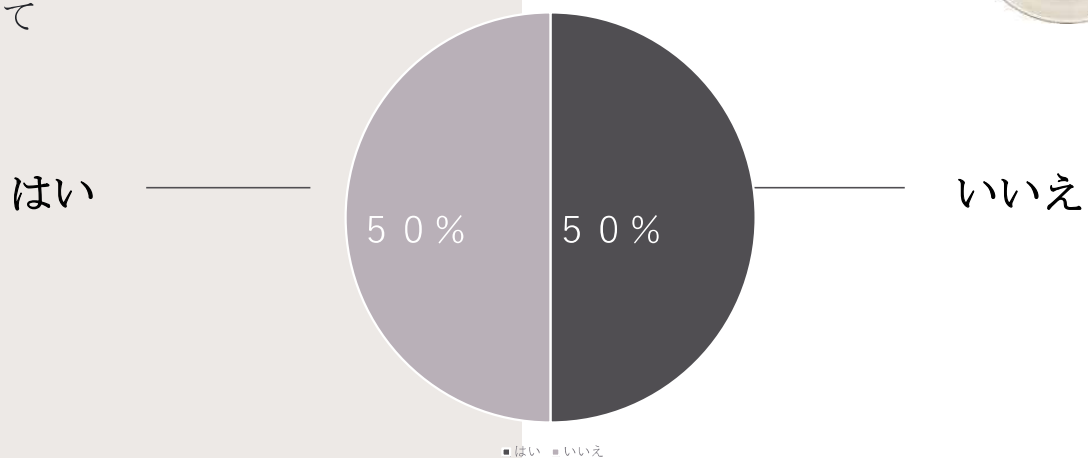
●  
子育てとは関係のない人に対して（22名回答）



公共の場で騒いだり走り回ったりする子どもを見て、うるさい・あぶないと思ったことがある。

#### 4.アンケート

●  
子育てとは関係のない人に対して



それは親の責任だと思う。

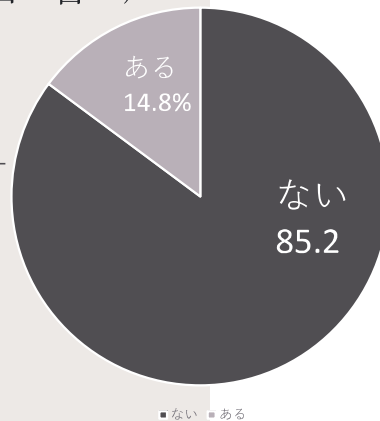
#### 4.アンケート

●  
子育てとは関係のない人  
に対して

- ・多くの人が公共の場にいる子どもに対して不満を感じている。
- ・半数が親の責任だと思っている。  
→社会は子どもを持つ親や、子どもに対して「冷たい」。

#### 4.アンケート

●  
実際に子育てをしている親に  
に対して（28名回答）



子育ての中で、世間の規範・ルールにプレッシャーを感じたことが！

#### 4.アンケート

##### あると答えた理由（例）

・子どもの個性を尊重したい一方で、世間の常識とされていることを守ることも教えなければ、後に困るのは子ども自身だと思って悩むことがある。そのどちらもできるだけ両立したいが、本当にできているのかが解らず不安になることがある。

・自分が相手の立場だったらという事を教えてきた。未就学児だとなんとなく理解する程度なので強くは言わなかった。年齢が上がるにつれて良し悪しの区別の判断が自分なりに出来るようにと教えたつもりだ。間違った時は強い口調で言っていた。

#### 4.アンケート

##### ないと答えた理由（例）

・周りの目は気にしなかったから。

・ストレスに感じたらやっつけられないから。

・周りに流されず、子どもにとっていい事をするように心掛けたから。

・世間は世間のような考え方や、周りの目は気にせず、自分の価値観や常識の中で子育てをしてきたから。



#### 4. アンケート



実際に子育てをしている親に対して

- ・あると答えた人は、子どもの個性を尊重すること、世間の常識とされていることを守ることを両立させようとしていることが分かる。
- ・ないと答えた人は、世間と家庭を一緒にせず、別のものとして考えていることが分かる。

→プレッシャーを感じない理由

#### 5. 社会で子どもを育てる

### 社会で子どもを育てる

- ・多くの方が公共の場にいる子どもに対して不満を感じている。
- ・子育てにおいて社会からのプレッシャーを感じないためには気にしないという方法に限られている。

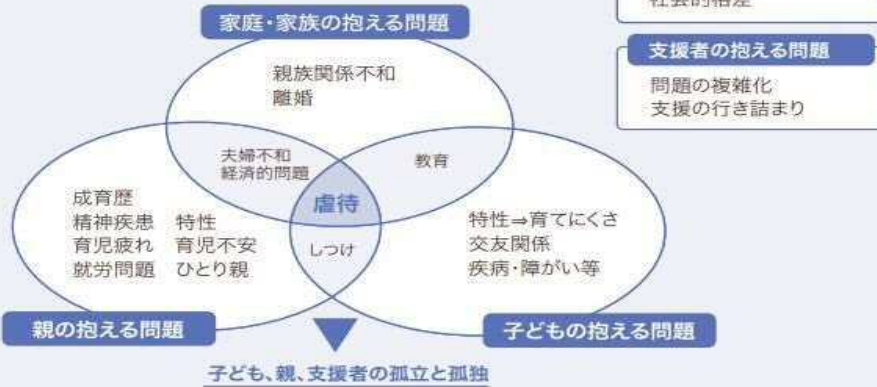
→子どもや子育てに対しての理解や寛容な考え方が広まらなければならぬ。



## 【どうして親が子どもを虐待するの?】

～その背景にあるもの～

(認定NPO法人 児童虐待防止協会HPより)



『子ども虐待 予防教育というアプローチ 学校現場ではじめる100分からの挑戦』(NPO法人児童虐待防止協会発行2022)

次年度は「虐待予防教育」を地域の子ども・大人向けに実施したい！！

「虐待が起これば、親が悪い、児相が悪い。犯人捜しで終わり、また虐待が起こる」  
「私たちは社会的な存在、社会の問題は社会の中に解決方法がある」  
⇒子ども時代から「教育（全員対象）」により虐待の背景や原因などの正しい知識と人権意識を育てることができれば、子育て・虐待の危機に陥っても対処できるのではないだろうか」⇔『虐待予防教育』の必要性（1次予防）  
⇒「虐待予防教育」を「社会が支援していく」こと

お聴きいただきありがとうございました

20

### 【インタビュー、アンケート】

- ・ 尼崎市こども青少年局子どもの育ち支援センター 児童相談所設置準備担当参事兼こども相談支援課参事 荻野勝己さん
- ・ 「あまおだ減災フェス」の来場者にインタビュー
- ・ 本校の看護医療・健康類型3年の保護者及び本校育友会長の知り合いのアンケート

### 【参考文献など】

- ・ NPO法人児童虐待防止協会『子ども虐待 予防教育というアプローチ 学校現場ではじめる100分からの挑戦』（2022）
- ・ 厚生労働省 令和3年度児童虐待相談対応件数
- ・ 川崎二三彦『虐待死1』（2019 岩波新書）
- ・ 杉山春『児童虐待から考える』（2020 朝日新書）

# 性暴力の加害者や被害者そして傍観者がなくなる社会を 兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型

## A テーマ設定の理由

## B 現状を知る①性暴力ワンストップ支援センターへのインタビュー

## ②内閣府調査より③書籍にあたる④生徒向けにアンケートの実施

## C 「性教育ボードゲーム」に出会う

## D まとめ

## E 今後の課題

### 【A テーマ設定の理由】

アメリカ（2017年）俳優がプロデューサーのセクハラ告発

⇒「#MeToo」⇒伊藤詩織さん（ジャーナリスト）性被害を告発

性暴力は、人権侵害であり、人間性を破壊するものであり、「魂の殺人」とも呼ばれ、決して許されるものではない。

⇒高校生にできることはなにかを考えようと動き出した。

## 【B現状を知る】

### ①性暴力ワンストップ支援センターへのインタビュー

#### 【インタビュー内容】

- ・どんな活動をしているのか。
- ・相談件数、年齢、相談内容の推移。
- ・性暴力被害が後を絶たないと考えられる理由・原因について
- ・被害者にも加害者にもならないためにどうすれば良い？
- ・被害者と加害者の関係は？
- ・被害者のトラウマ回復に向けての道筋は？ どのような治療やプログラムがあるのか？ 医師、臨床心理や公認心理士の関わりは？
- ・相談者は警察に被害届は出しているのか。出していない場合、相談者にどのようなアドバイスをするのか。受理されなかった場合、どのようなフォローをするのか？
- ・高校生に性暴力をなくすためにできることはあるか？



## ②2022.6.17公表、内閣府調査より

### 若年層の4人に1人が性暴力の被害

望まない性的な言動を「性暴力」と定義。内閣府男女共同参画局は2022年1月、インターネット上で16～24歳の男女約22万1千人を対象にアンケートを実施。回収率が2・82%と低いため「母集団の特性を反映する疫学的なデータとは言えない」とも留保。有効回答者（6224人）のうち何らかの被害を受けたとの回答は1644人（26・4%）だった。

#### 《被害内容》

- ・「言葉による被害」17・8%
- ・「身体接触を伴う被害」12・4%
- ・見たくない画像や動画を見させられる「情報ツール被害」9・7%、
- ・相手の裸や性器を見せられるなど「視覚による被害」7・4%
- ・「性交を伴う被害」4・1%

被害を受けた人を対象にした本調査（有効回答数2040人）も実施。

#### 《加害者との関係》

- ・「通っていた（いる）学校・大学の教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など」36・0%
- ・「まったく知らない人」32・5%
- ・「SNSなどインターネット上で知り合った人」14・0%

#### 《被害を受けた場所》

- ・「学校」22・5% ・「公共交通機関」16・8%、
- ・「インターネット上・SNSアプリ上」11・9%

#### 《被害を受けても「どこ（だれ）にも相談しなかった」

⇒約50%》

#### 《「性暴力のない社会にするために必要な取り組み」は？》（複数回答）

- 「刑法改正し、加害者を罪に問えるようにする、罪を重くする」（59・2%）
- 「社会全体に性犯罪・性暴力について広く知ってもらおう」（47・2%）
- 「加害者、被害者、傍観者にならないための教育の推進」（43・4%）

## 【以上から、「わかったこと」】

◎「加害者は悪いが被害者にも非があるのでは」と思っていた。

たとえば、「ミニスカートを履いているから」

⇒多くは支配欲を満たしストレスを発散するため！

◎加害者は「知らない人が多い」と思っていた。⇒「顔見知りが多い」

計画性がある、泣き寝入りしそうな被害者を選んでいる。

◎「死ぬ気で抵抗すれば防げる」といった言説が流布し続けていること。

◎加害者の中に、認知のゆがみがあるということ。

⇒女性専用車両に乗っていない女性は痴漢されたいと思っている。

◎性被害は男性もあっている。男らしさを強調される社会の中で、女性

よりも相談しにくいということ。

## ③書籍にあたる

ア：山本潤『13歳「私」を無くした私』（2021 朝日文庫）

実父からの性的虐待を受けていた半生を性暴力で苦しむ被害者をなくしたいという思いで実名を出して書いた。

・性暴力の知識のなさが、何が起きているのか自分でも理解できない理不尽さを生み、どこの家庭でも起こっている当たり前のこと」と認識していた。

・母に相談できたことによって解決することができた。

⇒「知識を得ることの大切さ」「相談する人の存在の大切さ」を知った。

⇒「声をあげている人が社会の理解を変えている」のだと思った。

### ③書籍にあたる

イ：太田啓子『これからの男の子たちへ』（2020 大月書店）

#### 「有害な男らしさ」とは

「意気地なしはだめ・動じない強さ」など社会的な成功と地位を追い求め、攻撃的、暴力的な態度をとることも含めた社会の中での男らしさ。

#### 「包括的性教育」の欠如（ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」）

幼い時から、何かをするには相手の同意を得ること、人権の尊重、性の多様性、自己決定、ジェンダー平等を教えていく。性と生殖は一部でしかない。・・・健康、パートナーとの関係、出産、性に関することはその人の人生そのもの。性教育は子どもが人生や将来を考える足掛かりだ」

（桜井裕子さん 助産師 朝日新聞2022.6.14）

#### 「ジェンダーバイアス」「男の子なんだから」「女なんだから」

⇒「性暴力」の根底にあるのではないかと思うようになった。

### ④学校で生徒にアンケートを実施

問1：性暴力と性犯罪は同じだと思いますか？

問2：性暴力、性犯罪にあった時はどうしますか？

問3：相談できる支援センターがあることを知っていますか。

問4：自分を守るために必要なことは何だと思いますか。

問5：性教育とはどういう教育だと思いますか。

問6：性教育をきちんと学校や親から受けたことはありますか。

問7：問6で「受けた」と回答した人にお聞きします。どのような内容でしたか。

#### 【回答期間】

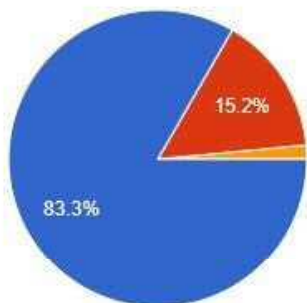
2022年11月9日（集計のミスにより2023年1月13日再実施）

#### 【実施対象】

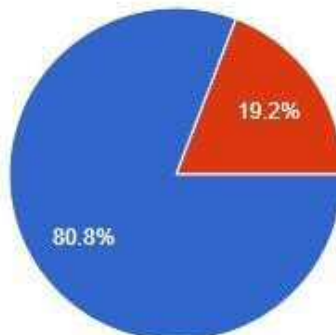
1, 2, 3年 男子66人、女子120人

# 問1：性暴力と性犯罪は同じだと思いますか？

男性66名



女性120名



同じだという回答が男女とも8割を占める。定義では「望まない性的な言動」を「性暴力」と捉えており、「性犯罪」には当てはまらない「言葉による被害」も「性暴力」である。

# 問2：性暴力、性犯罪にあった時はどうしますか？

男性

・警察に通報する・抵抗する・親・友人、先生、弁護士、医師に相談する・助けをよぶ・どうもしない・大声で周囲の助けを借りる・どうしようもないのでなにもしない・大きな声で威嚇する・やめろと言う・我慢する・殴り飛ばして警察に突き出す・やり返す

女性

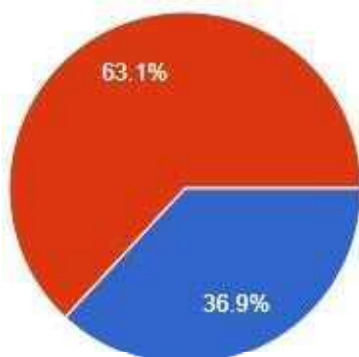
親・友人、警察に相談する・どうにもできない・逃げる・訴える・匿名で相談できる場所で相談する・インターネットで社会的に殺す・親に言うべきだが実際には言えない・誰にも言えない・安心できるようになれば信用ができる大人に話す・ケータイで調べる・叫ぶ・抵抗する・恥ずかしいとか怖いと思うと思うが信頼できる大人に相談する。

男女とも「相談する」という回答が多かった。しかし、内閣府の調査では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が約半数をしめている。このアンケートのように、性暴力を受けたらという仮定の話では「相談する」がほとんどだが、実際に「性暴力」を受けた場合は、誰にも、どこにも相談できないのだろう。



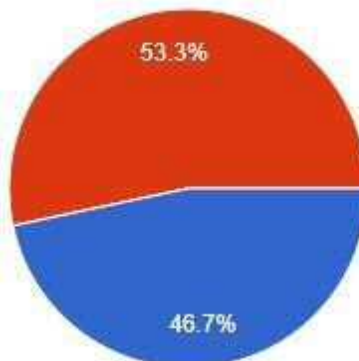
問3：相談できる支援センターがあることを知っていますか。

男性65名



女性120名

● はい  
● いいえ



● はい  
● いいえ

「はい」と答えた男性が約37%、女性が47%で、やはり女性の方が認知度は高い。しかし「知らない女性」が約半分おり、存在を知られていないことがわかった。

問4：自分を守るために必要なことは何だと思えますか。

男性

・なんでも相談できる相手・複数人で行動する・性暴力の知識を蓄えておく・人通りが多い道を選ぶ・護身能力を身につける・自分を大切にす  
る・適切な判断・自分の気持ちを言うこと・性暴力を知る・勇気・コミュニティを築く・嫌なことは嫌と言えること・周りを頼る

女性

・きっちりした服を着る。夜道を一人で歩かない・相談できる相手を作っておく・ブザーやスプレーを所持しておく・露出の多い服は着ない・自ら勇気を振り絞って声を出す・女性専用車両に乗る・防衛できるように筋トレをする・自分の意見をしっかり言う・断ったりする強さ・緊急避妊薬や相談するところを知る・性暴力などの性の知識をつける。大切に思ってくれない人とは性行為をしない・人に流されない・インターネット等の顔が見えないものでは知らない人と関わらない

「自分を守るために必要なこと」という「問い」であるので、個人の取り組み・意識の問題として回答した人がほとんどであったが「社会をどうするのか」という視点が少ないことが気になった。また、「露出の多い服を着ない」という回答があり、「被害者」に問題があるという認識を持っていることがわかった。

## 問5：性教育とはどういう教育だと思いますか。

### 男性

・犯罪に巻き込まれないようにする教育・正しい性に対する教養・自分と他人を守るための教育・ジェンダーについて・生殖・体の構造だけでなくジェンダーや性行為など・受けないと間違った知識を持ってしまうもの・性暴力の危険性や対策を学ぶ・性病・責任があることを学ぶ・性暴力などから自分の身を守るためのもの・誰かが悲しむことのないようにする教育

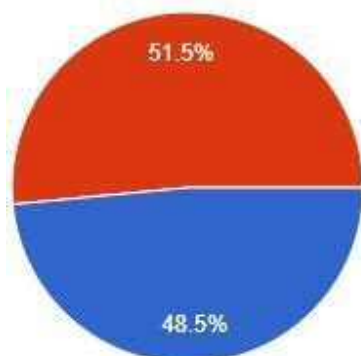
### 女性

自分の身を守る教育・性犯罪を防止しつつ自分や他人を守るもの・妊娠しない、させない為・性病の感染予防について・自分や相手を守るための教育・生きる上で必要なもの・幼少期からはじめるべき教育・きちんとした性知識を学ぶこと・人間の在り方を学ぶ・命を守るための教育・正しい避妊方法や生理などへの理解・女も男も生活する上で学ばないといけないもの  
・自分と人を傷つけない教育・ジェンダー問題に触れ、偏見をなくす・間違った情報を信じないようにするもの

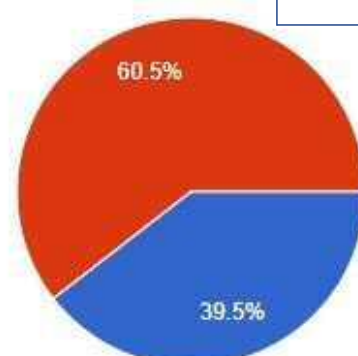
ジェンダーの問題に取り組むこと、自分や身の回りの人を守るためのもの、幼少期からの偏見をなくす、間違った情報を読み解く教育、生きる上で必要なことを学ぶことが「性教育」だと書いている人が多くいた。

## 問6：性教育をきちんと学校や親から受けたことはありますか。

男性66名



女性120名



性教育を受けた男性は約5割であるが、女性は約4割と少ない。この理由について「きちんと」という言葉の認識の違いからなのか、それとも女性の方が性教育を受けている率がやはり低いのか、専門家に聞いてみる価値がありそうである。

問7：問6で受けたと回答した人にお聞きします。どう  
いう内容でしたか。

男性

・性とはどのようなものか・男女の体のつくりの違い・性病について・セックスのこと・性器のしくみ・避妊（コンドーム）・性暴力・妊娠・性感染症

女性

・体がどういうふう成長するか・成長過程で生じる苦痛・命の大切さ・妊娠してしまった時の自分の負担。  
・自分を守るためにはどうすべきか・避妊の必要性や方法・断ることの大切さ・子どもを作る過程・中絶について・母が性教育に関する本を買ってくれ一緒に読んだ・生理・妊娠のしくみ こうのとりのゆりかご・ネットでの被害・軽気持ちではいけないこと・きちんと断ること・関連のドラマをみた・予期せぬ妊娠が起す問題・ジェンダー問題や価値観

「包括的性教育」にはほど遠い内容！

幼い時から、何かをするには相手の同意を得ること、人権の尊重、性の多様性、自己決定、ジェンダー平等を教えていく。性と生殖は一部でしかない。

## 【C 性教育ボードゲームに出会う】

性暴力をなくし、被害者を生ませないこと」そのためには何が出来る？

めっちゃ良い教材が手に入った！「性教育ボードゲーム」（大人用ゲーム）⇒すごろくで遊びながら、参加者同士で自分の体験や考えをシェアして議論しながら、性に関する知識を獲得できる。（一社法ソウレッジ）

クラスでやってみた！こんな問いかけが！

◎「『どうやって赤ちゃんはできるの？』と子どもに聴かれた場合は」

◎「12歳までに『セックス』という言葉を知る人の割合は」

◎「脚を開くのが好きな3歳の娘に『女の子だからやめなさい』と叱るのはどうなの」

◎「園児同士のキスも相手の同意が必要か」



## やってみた感想！！

- ・大人向けというので内容が難しかったが、内容が深く考えさせられるものだった。
- ・少し恥ずかしい内容もあったが短い時間で濃く、正しく知識を学べた。
- ・性教育をどう子ども教えたらいいのか迷う親御さんや中学生・高校生の性教育の授業の一環として教師が使うのもいいのではないか。
- ・普段の会話で性の事を話す機会はあるまい。ゲームを通して性について学べるのは良い。
- ・深く性について考える機会がなく、新しく知ることばかりで、楽しく学べた。
- ・性被害に会った時の連絡先など多くのことを学ぶことができた。
- ・ゲーム中の日常会話をする時とは違う少し違う微妙な雰囲気は、性に関する話がタブー視されている現状が露呈しているようにも思えた。

## 【D まとめ】

①親世代もしっかりとした性教育を受けていない、友人や漫画で知識を得ている、性をめぐる事実についての認識も不十分では？

⇒大人世代が学ぶことの必要性

②その上で、**幼少期から思春期にかけての「包括的性教育」の必要性。**

「性教育は生殖教育でない。正しい避妊法や性被害の対処法も大切だが」

「自分の体について知り、自分を大切に思う」＝「自尊心」が育てば、自分の「安全」と「健康」を守ることに繋がる。

⇒自分だけではなく、**他者を尊重し、お互いに尊重し合う人間関係を築くことができる。**『性教育』は「人権教育」だ。

**お互いに尊重できる人間関係の中では「性暴力」は存在しない。**



## 【E:今後の課題】

「性暴力の加害者や被害者そして傍観者がなくなる社会を構築する」ために、高校生にできることは！

- ①ジェンダー平等の考え方を学校生活に落とし込む作業を！
  - ②保健師や助産師と一緒に「包括的性教育の出前授業」を地域で実施。対象は中学生、高校生、大学生！そして大人！！
  - ③「性的同意」のパンフレットを作成し、中・高校に配布。
- ⇒性交を求める側は常に相手の意思を確認する必要がある。  
(日常生活で相手に同意を得るのは考えれば「あたりまえ」では?)

お聴きくださり、ありがとうございました

### 【インタビュー、アンケート】

- ・性暴力ワンストップ支援センター（尼崎市総合医療センター内）
- ・本校生へのアンケート（1，2，3年 男子66人、女子120人）

### 【参考文献など】

- ・「内閣府男女共同参画局調査」結果（2022.6.17公表）
- ・山本潤『13歳「私」を無くした私』（2021 朝日文庫）
- ・太田哲子『これからの男の子たちへ』（2020 大月書店）
- ・桜井裕子さん（助産師）の記事（朝日新聞 2022.6.14）
- ・「性教育ボードゲーム」一般社団法人ソウレッジより購入